

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成28年8月25日 (2016.8.25)

【公表番号】特表2014-521642(P2014-521642A)

【公表日】平成26年8月28日 (2014.8.28)

【年通号数】公開・登録公報2014-046

【出願番号】特願2014-522853(P2014-522853)

【国際特許分類】

C 07 D 471/04 (2006.01)

A 61 P 27/02 (2006.01)

A 61 P 9/10 (2006.01)

A 61 P 35/00 (2006.01)

A 61 P 27/06 (2006.01)

A 61 P 25/00 (2006.01)

A 61 P 17/00 (2006.01)

A 61 P 17/06 (2006.01)

A 61 P 17/08 (2006.01)

A 61 P 37/08 (2006.01)

A 61 P 17/02 (2006.01)

A 61 P 29/00 (2006.01)

A 61 P 25/06 (2006.01)

A 61 P 21/00 (2006.01)

A 61 P 9/00 (2006.01)

A 61 P 25/28 (2006.01)

A 61 P 25/18 (2006.01)

A 61 P 25/30 (2006.01)

A 61 P 3/04 (2006.01)

A 61 P 1/12 (2006.01)

A 61 P 7/10 (2006.01)

A 61 P 11/02 (2006.01)

A 61 P 25/22 (2006.01)

A 61 P 25/24 (2006.01)

A 61 P 37/06 (2006.01)

A 61 P 1/04 (2006.01)

A 61 P 25/16 (2006.01)

A 61 K 31/437 (2006.01)

C 07 D 491/048 (2006.01)

A 61 K 31/4355 (2006.01)

C 07 D 513/04 (2006.01)

A 61 K 31/429 (2006.01)

【 F I 】

C 07 D 471/04 1 0 4 Z

A 61 P 27/02

A 61 P 9/10

A 61 P 35/00

A 61 P 27/06

A 61 P 25/00

A 61 P 17/00

A 61 P 17/06

A 6 1 P 17/08
 A 6 1 P 37/08
 A 6 1 P 17/02
 A 6 1 P 29/00
 A 6 1 P 25/06
 A 6 1 P 21/00
 A 6 1 P 9/00
 A 6 1 P 25/28
 A 6 1 P 25/18
 A 6 1 P 25/30
 A 6 1 P 3/04
 A 6 1 P 1/12
 A 6 1 P 7/10
 A 6 1 P 11/02
 A 6 1 P 25/22
 A 6 1 P 25/24
 A 6 1 P 37/06
 A 6 1 P 1/04
 A 6 1 P 25/16
 A 6 1 K 31/437
 C 0 7 D 491/048 C S P
 A 6 1 K 31/4355
 C 0 7 D 513/04 3 4 3
 A 6 1 K 31/429
 C 0 7 D 471/04 1 0 7 E

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年6月17日(2016.6.17)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 5】

本発明は、2 アドレナリン調節因子としての新規 N - (イミダゾリジン - 2 - イリデン) - ヘテロシクロペンタ [b] ピリジン誘導体に関する。これらの新規化合物は、2 A、2 B、2 C 活性化により軽減される状態および疾患の範囲を有する哺乳類、例えばヒトの治療、例えば、限定はされないが、緑内障、眼圧亢進、虚血性ニューロパチー、視神経症、疼痛、内臓痛、角膜痛、頭痛、片頭痛、癌性疼痛、背部痛、過敏性腸症候群痛、筋肉痛および糖尿病性ニューロパチーと関連する疼痛の治療、糖尿病性網膜症、他の網膜変性状態、脳卒中、認知障害、精神神経状態、薬物依存および嗜癖、離脱症状、強迫性障害、肥満、インスリン抵抗性、ストレス関連状態、下痢、利尿、鼻閉、痙攣、注意欠陥障害、精神病、不安、うつ病、自己免疫疾患、クローン病、胃炎、Alzheimer 病、パーキンソン A L S、神経変性疾患、網膜神経保護、皮膚状態、皮膚疾患、酒さ、日焼け、乾癬、酒さ性ざ瘡、更年期関連のぼせ、精巣摘出に起因するのぼせ、アトピー性皮膚炎、光老化、脂漏性皮膚炎、ざ瘡、アレルギー性皮膚炎、皮膚の発赤、顔の毛細血管拡張症（以前から存在していた微小血管の拡張）、鼻瘤（濾胞性拡張を有する鼻の肥大）、赤色球状鼻、ざ瘡様皮疹（滲出または痂皮となり得る）、顔の焼けるまたは刺すような感じ、ひりひりする、充血した、および涙ぐんだ目、皮膚の紅斑、皮膚の血管の拡張を伴う皮膚機能亢進、L y e l l 症候群、スチーブンスン - ジョンソン症候群、多形性紅斑マイナー、

多形性紅斑メジャーおよびまたは他の炎症性皮膚疾患、加齢黄斑変性、滲出型黄斑変性、萎縮型黄斑変性、地図状萎縮、糖尿病性網膜症、糖尿病黄斑浮腫、腫瘍、創傷治癒、炎症および網膜静脈閉塞の治療、緑内障、網膜色素変性症および多発性硬化症に続発する神経炎を含む状態に起因する視力喪失を有する患者における視力向上に有用である。